

三条市実学系ものづくり大学開設検討委員会（第9回）

議事概要

- 1 開催日時 平成30年11月26日（月）10時00分～11時55分
- 2 場 所 三条市役所 三条庁舎2階 大会議室南側
- 3 出席者 [委員]（敬称略）
高橋勉（委員長）、兼古耕一（副委員長）、アハメド・シャハリアル、
齋藤一成、木村栄一、勝見悦行の各委員（6名）

[事務局]

駒形総務部長

高等教育機関設置推進室

坂田室長、今井次長、相場主査、田代専門員、若木専門員

商工課

瀬戸主幹

- 4 傍聴者 なし
- 5 報道機関 新潟日報社、三條新聞社、エヌ・シー・ティ
- 6 配付資料
・資料 大学及び学部・学科の名称等について

7 会議概要

会議の開催に先立ち、事務局から今回の会議は冒頭のみ公開とする旨の説明があった。

(1) 開会

(2) 議事

[大学の名称等について]

- 事務局から、「大学の名称等について」の説明があった。
 - 事務局から、配付資料に基づいて、前回の検討委員会で提示された名称案と、事務局案を踏まえて広く検討いただきたい旨の説明があった。
 - 各委員による意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。
- ① 三条技能創造大学という名称は、技能創造という新しい学問分野を切り拓いて

いくという印象があり、斬新な名前だと感じる。

- ② 将来にわたって、その意味するところを伝えられる大学名にできるとよい。
- ③ 技能よりも技術という単語のほうが、未来志向であると感じる。
- ④ 特色ある大学であることを、大学名・学部名・学科名でも表せるとよい。
- ⑤ 技能創造という単語は聞き慣れないが、人々の印象に残る名前になり得るかもしれない。
- ⑥ 技能という言葉は、厚生労働省管轄の学校等での教育を想起させる。
- ⑦ この地域に蓄積された経験や知識を表す言葉として、技能はふさわしい。
- ⑧ 技能創造という言葉には、ものづくりの中にこの地域の人々の魂を吹き込み、また、それを新しい発想で創造していくという意味をこめることができるのではないかと考えており、大学名として非常に良い名前になるのではないかと。
- ⑨ 大学名に技能を使用するのであれば、これまでの技能という言葉のイメージとは違った意味を付与しているということが誰にでも伝わるように工夫していく必要がある。
- ⑩ 技能や技術などの単語によらない、三条大学のような単純な名前もよいと思う。
- ⑪ 創造という単語を用いることによって、ものづくりの技術を守ることや、ものを売るために必要となる幅広い分野の学びを包含していることを表現できるのではないかと。
- ⑫ 大学名に技能を使うのであれば、学部・学科名で技術を使わないほうがよい。
- ⑬ 高校生は、学科名で自分のやりたいことを絞り込むので、学科名は抽象的でないほうがよい。
- ⑭ 高校生は、自分が学んできたことが大学の学科名に入っているほうが、進学先としての受験意欲を保てるようだ。
- ⑮ 受験生からも、企業の採用担当者からも支持される学科名としたい。
- ⑯ 機械という言葉を使うと、普通高校の生徒は受験をためらうかもしれないし、工業高校の生徒でも自信のある生徒しか受験しない可能性もある。
- ⑰ 地元の高校生が多く受験できるよう、大学が開設予定であるという情報を積極的に発出してほしい。
- ⑱ 基本理念の「蓄積された知識の中に」は、「蓄積された知識と経験の中に」としてほしい。
- ⑲ 製造業の現場では改善が非常に重要な要素となっているので、学生の受入れによって現場改善に資する可能性があることや、現場改善のコンサルティング業務を行っている企業等に講座を持ってもらうことなどを検討していただきたい。

〈検討委員会提案名称〉

【大学名】 三条技能創造大学

【学部名】 工学部

【学科名】 技術・経営工学科

- 事務局から次回の開催について、また、市が情報を公開するまで、資料や会議内容について公にしないよう説明があった。

(3) 閉会

了